

基本文型の要素



1 〈S + V〉 (主語+動詞)

① He works at night. 彼は夜働いています。
 S V (M)

25

この文型で使われる動詞は、補語を必要としない**自動詞**。

1) 基本要素は**主語 (S)** と**動詞 (V)** のみ。
 2) 副詞の働きをする**修飾語 (Modifier = M)** を伴うことがある。**(①では at night; 修飾語は基本要素には入れない)**



類例 (用例の斜体字部分は修飾語)

My brother **lived in Sapporo** three years ago.

私の兄は 3 年前札幌に住んでいました。

My father **teaches in college**. 父は大学で教えている。

He **eats very slowly**. 彼は食べるのがとても遅い。

The town **lies in the center of the island**. その町は島の中央に位置している。

She **studies from nine to eleven**. 彼女は 9 時から 11 時まで勉強する。

The sun **sets in the west**. 太陽は西に沈む。

I'll **think about it carefully**. そのことについては慎重に検討します。

A woman **in sunglasses was sitting on the bench**.

サングラスをかけた女性がベンチに腰かけていた。

2 〈S + V + C〉 (主語+動詞+補語)

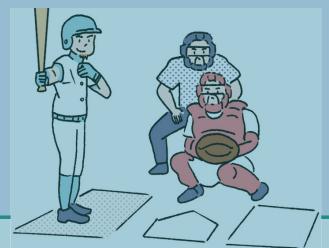
② Ichiro was a baseball player.
 S V C

26

イチローは野球選手だった。

③ Susan became a nurse at a local hospital. 27
 S V C (M)

スザンは地元の病院の看護師になった。



- 1) 基本要素は主語 (S), 動詞 (V), 補語 (C)。
- 2) この文型で使われる動詞は, 補語を必要とする自動詞。
- 3) 主語の状態や性質を表すものを補語 (主格補語) と呼ぶ。
C は S の説明をしているので, S = C と考えることができる。

〈S + V + C〉 の文型をとる動詞のタイプと用例

1) 「状態」または「状態の持続」を表すもの コーパス

be (…だ, …である), keep ((意図的に) …のままでいる), remain ((依然として) …のままである [いる]), stay ((しばしば意図的に) …のままでいる) など

類例 I **kept** silent at the meeting. 私は会議の間黙っていた。

You should **remain** seated until the doors open.

扉が開くまで席にお座りのままお待ちください。

2) 「(状態の) 变化」を表すもの コーパス

become (+名詞または形容詞), fall ((意に反して・急に) …になる), get (+形容詞のみ), grow (徐々に…になる), turn ((目に見えて・しばしば急に) …になる) など

類例 She **became** interested in jazz. 彼女はジャズに興味を持つようになった。

類義 〈状態の変化〉を表す動詞の意味の違い

- grow は元の意味が「成長する」なので, 時間の変化で少しづつ変化することを表す。
- turn は元の意味が「回転する」なので, 不意に (重要な性質の部分が) ある状態に変わることを表す。
- fall は元の意味が「落ちる」なので, 主語がコントロールできない状態に突然変わることを表す。

The boy **grew** stronger every day. その少年は日増しに力強くなっていく。

His face **turned** pale. 彼の顔が青ざめた。

Paul **fell** asleep as soon as he went to bed.

ポールはベッドに入るとすぐに寝入った。



3) 「外見」を表すもの コーパス

appear (…に見える, 思われる, …のようだ), look (…に見える), seem (…に見える, 思われる, …のようだ) など

類例 I feel sorry for you. お気の毒です。

Natto **smells** horrible. 納豆はひどいにおいがする。

His idea **sounds** interesting. 彼のアイディアは面白そうだ。

This soup **tastes** sour. このスープはすっぱい。

Something **smells** good in the kitchen.

キッチンから何かいいにおいがする。

It may **sound** strange, but it's a fact.

奇妙に聞こえるかもしれないが、それは事実なんだ。

原理 look, seem, sound, smell, taste など + 〈like + 名詞〉：これらは、「…のように見える / 思われる / 聞こえる / におう / 味がする」という意味。〈like + 名詞〉が1つの形容詞として働いている。

He **looks like** Brad Pitt. 彼はブラッド・ピットに似ている。

The band **sounds** exactly **like** the Beatles.

そのバンドの演奏はビートルズにまさにそっくりだ。

Her hair **smells like** cinnamon. 彼女の髪はシナモンのようなにおいがする。

This chocolate **tasted like** strawberry.

そのチョコはイチゴのような味がした。

ここが Point! 「taste + 形容詞」と「taste like + 名詞」の違い

“How does it taste?” “It tastes **salty**.” 「それはどんな味がしますか」「塩辛いです」
〔How に対して、形容詞 salty が答えになっている〕

“What does it taste **like**?” “It tastes **like chicken**.” 「それは何の味がしますか」「鶏肉の味がします」〔What に対して、名詞 chicken が答えになっている〕

練習問題 1：日本語に合うように単語を並び替えなさい

→解答 p.43

① ユミはしばらく無言のままだった

Yumi (some / silent / for / remained / time).

② その声は聞き覚えがある（私には馴染みがあるように聞こえる）

That voice (familiar / sounds / me / to).

③ この部屋はとても居心地が良い（と感じる）

I (comfortable / in / feel / very / this room).



類例 I bought a book at a nearby bookstore. 私は近所の書店で本を買った。

Tom left home for school in the morning.

トムは朝に家を出て、学校に向かった。

They examined the situation carefully. 彼らは状況を詳細に分析した。

They watch movies every Saturday night.

彼らは毎週土曜の夜に映画を観る。

Beth baked a chocolate cake yesterday.

ベスは昨日チョコレートケーキを焼いた。

He gave a speech on global warming.

彼は地球温暖化についてのスピーチをした。

My father is cooking Christmas dinner for the family.

父は家族のためにクリスマスディナーを作っている。

Jane wrote an excellent paper. ジェーンは見事なレポートを書いた。

Sue and I enjoyed the cream pie you baked.

あなたが作ったクリームパイを、私とスーがおいしくいただきました。

ここが Point! 目的語はいつも「…を」と訳してオーケー？

〈SVO〉のパターンを日本語にする場合、目的語は「…を」とすることが多いが、「が、に、で」などの場合もある。

(1) Ken likes drinking coffee. 健はコーヒーを飲むのが好きです。

(2) The train reached the station. 列車が駅に到着した。

(3) Our team lost the game last weekend. 私たちのチームは先週試合で負けた。

(4) Tom resembles his grandfather. トムは彼のおじいさんに似ている。

Will you marry me? ぼくと結婚してくれませんか。

This jacket fits you well. このジャケットはサイズがあなたにピッタリだ。

We need to discuss the matter immediately.

私たちは即座にその問題について議論しなくてはならない。

Q

質問箱 修飾語句は付け足し？

基本要素と言えば、主語 (S)、動詞 (V)、目的語 (O)、補語 (C) の 4 つになります。なので、修飾語 (Modifier = M) はあくまでも付け足したというイメージがあるかもしれません。

しかし、次の用例をみると、

She put some water in the vase.
 S V O M

彼女は花瓶に水をいくらか入れた。

「彼女は水を入れた」と言うだけでは意味が完結しないことがわかりますね。

つまり、「どこに」(水を)入れたかを言わなくてはいけません。

それを示すのが、修飾語 (Modifier = M) である in the vase の部分なのです。

修飾語の中にも、なくてはならないものとそうでないものがあるというわけですね。言い換えれば、put は「何を」+「どこに」入れたり置いたりしたかを言わなければならない動詞なのです。



練習問題 2：日本語に合うように単語を並び替えなさい

→解答 p.44

① 昼食を食べながらその件について話し合いましょう

Let's (the matter / over / discuss / lunch).

② 彼らはあまり（お互いに）似ていない

(each / don't / resemble / they / other) very much.

③ 私はバスに財布を忘れてしまった

(my wallet / on / I've / the bus / left).

4 〈S + V + O₁ + O₂〉 (主語+動詞+目的語₁+目的語₂)

7 Anne gave Aretha a dress. アンはアリーサにドレスをあげた。

31

S V O₁ O₂

解答 1 ① Yumi (remained silent for some time).

② That voice (sounds familiar to me).

③ I (feel very comfortable in this room).

8 My father bought me a book. 父は私に本を買ってくれた。一次ページ イラストS V O₁ O₂

32

- 1) 基本要素は**主語 (S)**, **動詞 (V)**, **目的語 (O)**。
- 2) この文型で使われる動詞は, 2つの目的語を必要とする**他動詞**。
- 3) 「誰に」にあたる部分(O₁)を**間接目的語**と呼び, 「何を」(O₂)にあたる部分を**直接目的語**と呼ぶ。英語ではこの文型を用いると, 「与える」という意味が必ず含意されるようになるため, この文型で用いられる動詞のことを「**授与動詞**」と呼ぶことがある。



類例 Susan **paid** us 30 dollars for the T-shirt.

スーザンはTシャツの代金として30ドルを私たちに支払ってくれた。

My uncle **brought** me a new bicycle.

おじさんが私に新しい自転車を持ってきてくれた。

Beth **cooked** us a nice meal. ベスは私たちにおいしい食事を作ってくれた。

She **handed** me her dictionary. 彼女は私に辞書を手渡してくれた。

Ken **sent** me an e-mail message. 健は私にメールを送ってくれた。

The latest smartphone **cost** me 100,000 yen.

最新型のスマートフォンは10万円した。

原理 〈S + V + O₁ + O₂〉で用いる動詞は, 〈S + V + O₂ + 前置詞 + O₁〉に言いかえられる場合が多い。

7' ≒ Anne **gave** a dress to Aretha.

8' ≒ My father **bought** a book for me.

注意しよう! 直接目的語 O₂ が代名詞の場合

直接目的語が代名詞の場合は, 〈S + V + O₂ + to/for + O₁〉の形をとる。

○ I bought this hat yesterday and I'm going to give it to my father.

私は昨日この帽子を買い, 父に渡すつもりです。

✗ I bought this hat yesterday and I'm going to give my father it.

解答 2 ① Let's (discuss the matter over lunch).

② (They don't resemble each other) very much.

③ (I've left my wallet on the bus).



2) 〈for + 間接目的語〉をとる動詞 コーパス

buy (買う), choose (選ぶ), cook (料理する), find (見つける), get (手に入れる, 買う), leave (残す), make (作る), order (注文する), play (演奏する), save (とつておく, 確保する) など

英語の原理 売買を表す buy と sell で使われる前置詞の違い



<SVO₂ + 前置詞 + O₁>の形で使われる前置詞の使い分けはすでに説明したが、この原理はこれら 2 つの動詞にも当てはまる。

I **bought** a tablet **for** my brother. 私は弟にタブレットを買ってやった。

My **brother** sold his tablet **to** a friend of his.

弟は彼のタブレットを友だちの 1 人に売った。

原理 1 つめの用例では, buy に「与える」の意は含まれておらず, 〈利益〉を表す for を使うことになる。2 つめの用例では, sell に「(お金と交換に) …を与える」の意が含まれており, 〈S + sell + O₁ + O₂〉 の際に含意されていた「与える」の意を伝えるには〈到達点〉を表す to で済んでしまう。

類例 I will **cook** you a nice meal.

→ I will **cook** a nice meal **for** you.

あなたのためにおいしい食事を作つてあげましょう。

Check the list!

She **found** me a fancy notebook.

→ She **found** a fancy notebook **for** me.

彼女は, 私のためにかわいいノートを見つけてくれた。



Can you **play** us a song with that guitar?

→ Can you **play** a song with that guitar **for** us?

私たちのためにそこのギターで 1 曲弾いてくれませんか。

Bob **made** me a birthday cake.

→ Bob **made** a birthday cake **for** me.

ボブは私にバースデーケーキを作つてくれました。

I'll **buy** you a drink. → I'll **buy** a drink **for** you.

1 杯おごりましょう。

練習問題 3: 上の英文と同じ意味になるように, カッコ内に単語を入れなさい

① Mother cooked us lunch. 母は私たち (のため) に昼食を作つてくれました。
Mother cooked lunch () ().

発展 to か for か→ get の場合

1) 「手に入る」の意味の get

I will **get** the car **for** you.

あなたのためにその車を手に入るつもりです。

2) 「届ける」の意味の get

We will **get** the car **to** you by the weekend.

週末までに車をお届けします。

1) では「…のために」という意味の for と、2) では移動先として〈到達点〉を示す to とともに get が使われ、意味が変わってきてている。

原理 cost, take などは〈SVOO〉のみが可能で〈SVO₂ + 前置詞 + O₁〉は不可。The latest microwave **cost** me 100,000 yen.

最新型の電子レンジは 10 万円した。

The meeting **took** us the whole afternoon.

会議は午後いっぱいかかった。

発展 この意味の cost や take が S V O₂ to O₁ の文型を取れない理由そもそも、S V O₂ to O₁ という文型は、「S が原因で O₂ が (S から) O₁ に 移動する」という意味を持つ。Anne **gave** a dress **to** Aretha.という例文では、Anne が give することによって
ドレスが Aretha に移動していると考えられる。

しかし、cost の場合は、そのような移動は起こらず、(スマートフォンから) 私のところに 10 万円が移動してくるわけではないので、移動先となる〈到達点〉を表す to を使う表現は避けられる。

一方、S V O₁ O₂ という文型は「S が原因で O₁ が O₂ を 与える」という意味。cost や take にそもそも「与える」の意は含まれず、〈S + V + O₁ + O₂〉の構文を使うことで、「O₁ に O₂ という負担を与える」という意味になる。The latest smartphone **cost** me 100,000 yen.という文で見ると、「最新型のスマートフォン (を買ったこと) が、私に 10 万円を支払うと
いう負担を与えた」ということを表している。

原理 save が「(労力・時間・金などを) 節約する」という意味になる場合、「S が O₁ に O₂ という節約を与える」ということから 〈SVOO〉 が可能になる (► p.439)。
Using a dishwasher will **save** you a lot of time.
食洗器を使えば大いに時間の節約になるでしょう。

英語の原理 do が SVO₁O₂ で使われる場合がある

do + 人 + good (利益), harm (害, 損害), damage (損害, 被害), favor (親切な行為) など。〈do good など + to + 人〉 の形もある。

原理 do には昔「与える」という意味があったが、現代英語では O₂ に来る名詞は非常に限定されている。

A little bit more exercise would **do** you good.
→ A little bit more exercise would **do** good **to** you.
もう少しだけでも運動するといいでしょう。

The typhoon **did** the rice serious damage.
→ The typhoon **did** serious damage **to** the rice.
その台風は稲に深刻な被害を与えた。



5 〈S + V + O + C〉 (主語+動詞+目的語+補語)

9 The news made her sad. その知らせは彼女を悲しい気持ちにさせた。 33
 S V O C

10 They call me a fool. 彼らはぼくをばか呼ぼうとする。 34
 S V O C

- 1) 基本要素は主語 (S), 動詞 (V), 目的語 (O), 補語 (C)。
- 2) この文型で使われる動詞は、目的語と（目的格）補語を必要とする他動詞。
- 3) (目的格) 補語 (C) は目的語 (O) の状態や性質を説明している。

9 では her = sad (She is sad.) という関係が成立しており,
 10 では me = a fool (I am a fool.) という関係が成立している。

類義 keep と leave の違い

keep: 本来の意味は「保つ」なので「意図して O を C の状態にしておく」

leave: 本来の意味は「後に残して去る」なので、「O を C の状態に放っておく」

You should **keep** your room clean. 部屋をきれいにしておきなさい。

You can **leave** the room as it is. 部屋はそのままにしておいていいですよ。

上の用例の keep your room clean では、ただ単にそのままにしておくと塵が積もったりして部屋は汚れ、きれいな状態に保つには労力を投入する必要があるので、keep が使われている。これに対して、leave the room as it is では「部屋をそのままの状態で放っておく」という意味なので、leave が使われている。ここでは as it is が C。



2) call 型 (O を C と呼ぶ) コーパス

appoint (O を C に指名する、任命する), **call** (O を C と呼ぶ), choose (O を C に選ぶ), elect (O を C に選挙で選ぶ), **name** (O を C と名づける) など [C は名詞が多い]

類例 He **named** his dog “Bingo.” 彼らは自分のイヌを「bingo」と名づけた。

They **elected** him captain of the team. 彼らは彼をチームのキャプテンに選んだ。〔1人しかない役職が補語になる場合は通例無冠詞〕

The student council **appointed** her secretary of the council.

生徒会は彼女を会の書記に任命した。

〔1人しかない役職が補語になる場合は通例無冠詞〕

3) think 型 (O を C と思う) コーパス

believe (O を C と考える、思う), consider (O を C と考える、思う),

find (O が C だとわかる、O を C と思う), think (O を C と考える、思う) など

類例 I **found** the book interesting. その本はおもしろかった。

Most of the students **thought** her beautiful.

生徒のほとんどは彼女を美人だと思った。

Seven people are **believed** dead in the forest fire.

ここが Point! SVOO と SVOC の make の区別

次の 2 つの文を比べてみよう。

(1) I will **make** you *an apple pie*. 君にアップルパイを作つてあげます。

(2) I will **make** you *a star*. 君をスターにしてあげるよ。

I will make you までは共通だが、次のような区別が必要。

(1) は you = *an apple pie* が成り立たないので、〈SVOO〉の文型

(2) は you = *a star* が成り立つので、〈SVOC〉の文型

make O₁ O₂ (O₁ に O₂ を作つてやる) O₁ ≠ O₂

make O C (O を C にする) O = C

Check the meaning!



ここが Point! SVOO と SVOC の call の区別

次の 2 つの文を比べてみよう。

(1) I will **call** you a taxi. あなたにタクシーを呼びましょう。

(2) I will **call** you Liz. あなたをリズと呼びましょう。

I will call you までは共通だが、次のような区別が必要。

(1) は you = *a taxi* ではないので 〈SVOO〉 の文型

(2) は you = *Liz* なので 〈SVOC〉 の文型

call O₁ O₂ (O₁ に O₂ を呼んでやる) O₁ ≠ O₂

call O C (O を C と呼ぶ) O = C



6 〈There + be 動詞+主語〉

11 There is a convenience store *near the station*.

35

V S (M)

駅の近くにコンビニがあります。

12 There are many international students *in our school*.

36

V S (M)

うちの学校には留学生が多数います。

〈There + be 動詞+主語〉の形は、「…がある、いる」と言いたいときに使われる。there は「そこに」という意味ではなく、形式的な主語の働きをしており、実質的な主語は be 動詞の直後にくる名詞（句）。実質的な主語が単数の場合は〈there is ...〉となり、複数の場合は〈there are ...〉となる。疑問文、否定文は次のようになる。

(1) 疑問文 : Is [Are] there ...? (►第14章)

Is there a convenience store near the station?

Are there many international students in our school?

(2) 否定文 : There isn't [aren't] (►第15章)

There isn't a convenience store near the station.

(cf. There is no convenience store near the station.)

There aren't many international students in our school.

類例 **There are** several left-handed batters on our team.

我がチームには左打者が何人かいます。

There was nobody in the library. 図書館には誰もいなかった。

There were a lot of students in the gym.

体育館にはたくさんの生徒がいた。

Is there an Italian restaurant near this station?

この駅の近くにはイタリア料理店はありますか。

コーパス **there** の後に be 動詞以外の動詞が使われることもある。

1) 〈存在〉を表す動詞 :

exist (いる, ある, 存在する), **live** (住んでいる, 暮らしている), **remain** (ある, 残っている) など

2) 〈発生・移動〉を表す動詞 :

appear (現れる), **come** (やって来る, 現れる), **happen** (起こる, 生じる) など

There lived a family with three children in this house.

その家には子どもが3人いる家族が住んでいた。

Suddenly **there came** thunder and lightning. 突然雷鳴がとどろき稲光が走った。

原理 **there** 構文は、新しい情報を導入するために用いられるので、通例主語には定冠詞を伴わないが、既知の問題を相手に気づかせる場合などに、定冠詞つきの名詞句が用いられることがある。

Then **there is** the **problem** of how to maintain the quality.

そこで問題になるのが、いかにして品質を維持するのかということだ。

発展 there の置かれる位置

there は形式的な主語として機能するので、様々な構文の意味上の主語の位置に置くことができる。

It is not unusual for **there** to be a delay in answering letters.

手紙の返信に遅延があることは珍しいことではない。

Let **there** be light. 光あれ。〔聖書の『創世記』より〕

I don't want **there** to be any trouble. 〔ややかたく〕もめ事はあって欲しくない。

There being nothing else to do, we went home. 〔ややかたく〕

ほかにする事が無かったので帰宅した。